

甲斐市立竜王小学校 自己評価書（前期）

平成 25 年 7 月 22 日(月) 作成

校長 「奥山 賢一」

記述者 職名（教諭・教務主任）「望月 政幸」

学校教育目標 「課題意識をもって学び、心身共に健康で、人間性豊かな児童の育成」

学校経営方針

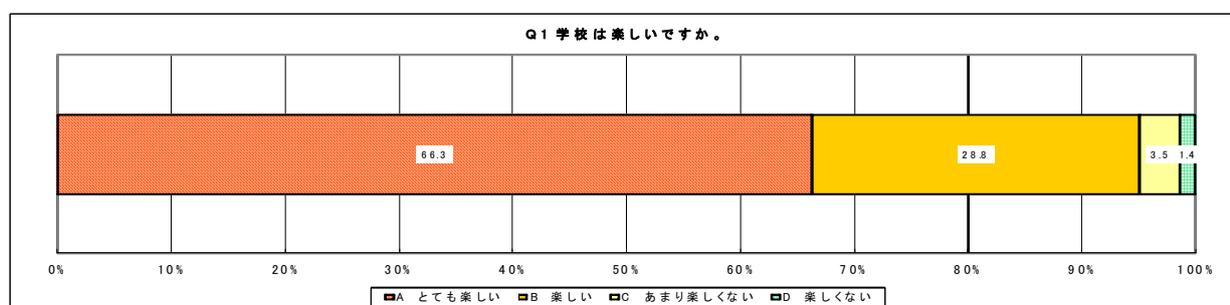
- (1)教職員の英知と和を結集し、学校教育目標の具現化に努める。
- (2)児童一人ひとりの自己実現を目指す学校づくりを推進する。
- (3)研修活動を活性化し、自ら学ぶ授業づくりを推進する。
- (4)特色ある学校づくりに努める。
- (5)安全・安心な学校づくりに努める。

1 全体評価

1 回目の教職員自己評価は、「学校教育目標に関して・学校経営について」「学校運営について」「学習指導について」「生徒指導について」「地域との連携について」「学校の特色に関して」の6観点について、それぞれ(A：そう思う B：ややそう思う C：ややそう思わない D：そう思わない)の4段階でアンケートを実施した。質問事項に大きな変化がないため、今回の数値を見るとともに、昨年度同期の結果とも比較しながら検討を行った。

49項目中39項目でA+B=100%、9項目がA+B≥90%、1項目がA+B≥80%(86.7%)という、高い肯定率が見られる。否定的な回答率が10%以上となった項目は、Q I-7「あなたの学校は、職場の福利厚生や健康管理について配慮がなされている」とQ III-9「あなたは、児童の思考力・判断力・表現力を伸ばすような学習活動を取り入れている」の2項目だけであった。また昨年度との比較においては、39項目がA評価において上昇していることが分かった。このことから、難しい課題をいくつも抱えている現状ではあるが、本校では学校教育目標に沿い、一人一人が持てる力を発揮するとともに力を合わせながら、安定した教育活動を繰り広げられていると言えるのではないだろうか。しかし、一つ一つを見てみると、まだまだ向上がはかれると思われる項目、さらに努力を要する項目、児童に対し指導を続けていかなければならない項目など、いくつかの課題も見えてくる。これらの項目については、今後の改善のポイントの一つとしてあげながら取り組んでいきたいと考えている。(2項目ごとの評価結果)

また今回、これと合わせて児童アンケートも行った。質問内容が多少変わった項目もあるが、ほとんどの観点で肯定的な数値(A+B)が向上していることから、児童の学校生活も安定度が増していると思われる。その中から、特徴的な項目については、(2項目ごとの評価結果でも)取り上げたいと思う。



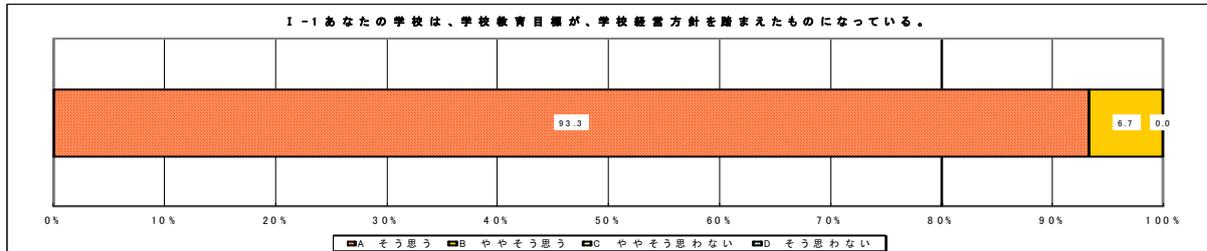
※児童アンケート「学校は楽しいですか」では、95%以上の児童が『楽しい』と答えているしかし、反面5%(20名程度)の児童にも、より一層目を向けていく必要があると思われる。

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

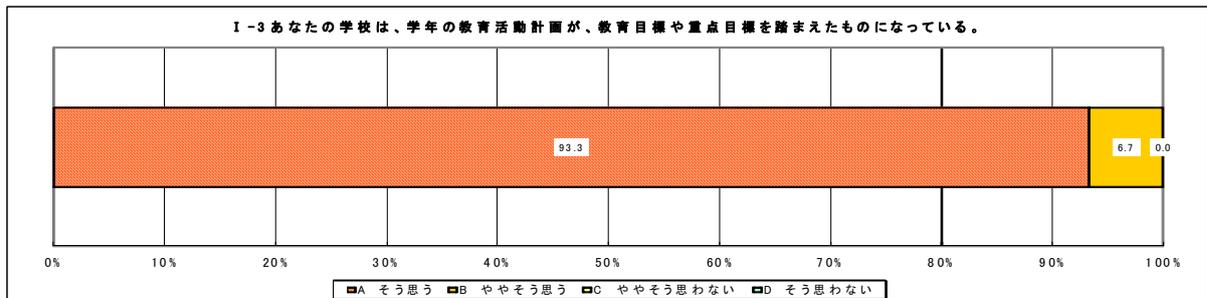
I 学校教育目標に関して・学校経営について

達成状況 「学校教育目標に関して・学校経営について」は、①②③④⑤⑥⑧（A+B=100%）、⑦（C 13.3%）。学校教育目標を踏まえ、P→D→C→Aサイクルを取り込んだ、適切な学校経営への努力がなされていると思われる。今後はさらに努力を続け、Aの値が増えることを目指したい。

Q1-1「あなたの学校は、学校目標が、学校経営方針を踏まえたものになっている」



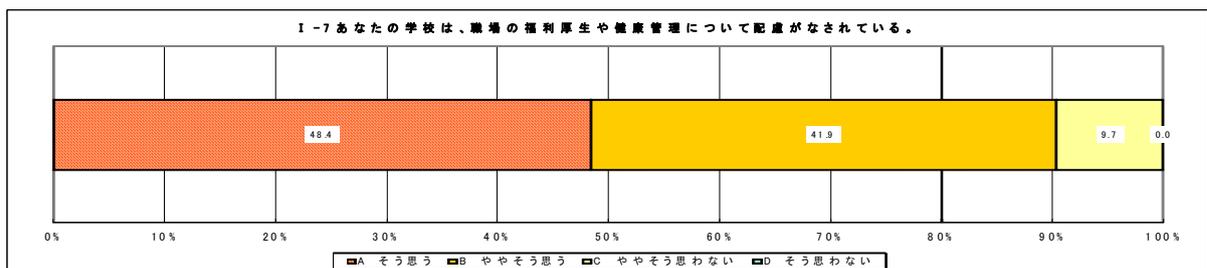
Q1-3「あなたの学校は、学年の教育活動計画が、教育目標や重点目標を踏まえたものになっている。」



なお、⑦の「職場の福利厚生や健康管理についての配慮」の項目においては、前年度に比べ否定的な評価が増えているため改善を心掛けたい。

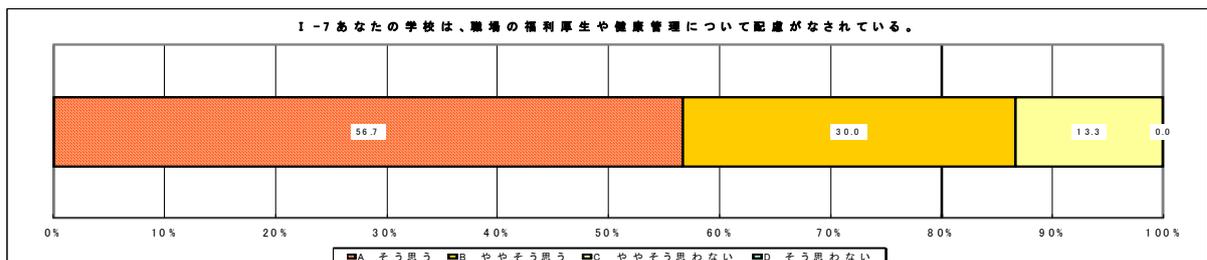
<前年度の評価>

Q1-7「あなたの学校は、職場の福利厚生や健康管理について配慮がなされている。」



<今回の評価>

Q1-7「あなたの学校は、職場の福利厚生や健康管理について配慮がなされている。」

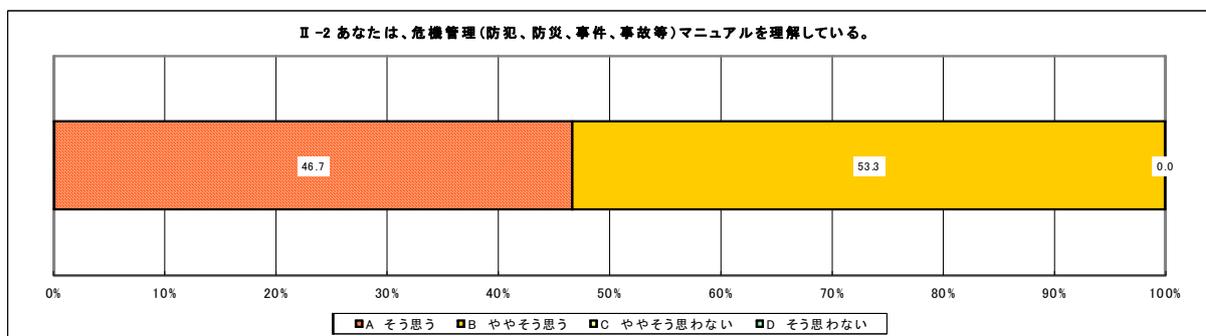


改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の心や精神面での健康において、ストレスや疲労が重ならないよう、メンタルヘルスへの取組を強化していく。 ・日常の声かけ、小さなところからの協力体制づくり等によって、笑顔ある職場づくりを心がける。 ・各種会議や行事等の効率化を図り、教育活動における教職員相互の協力体制づくりに努め、勤務時間外業務の解消を行っていく。また補欠計画を組むなど、体調不良や家庭の事情等による休暇がとりやすい職場づくりを更に進めていく。 ・職員厚生部等を中心に、職員の健康増進や親睦が図れる活動を定期的実施して、心身ともに健康を維持できる職場環境づくりに努めていく。
-----	--

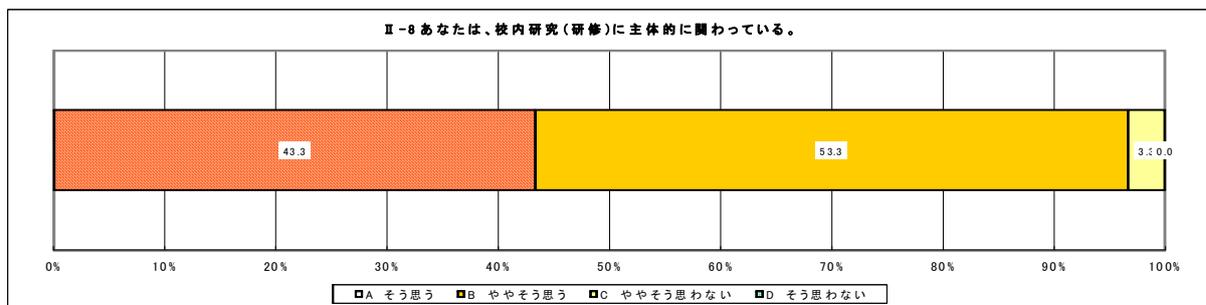
II 学校運営について

達成状況 「学校運営について」は、①②③④⑤⑥⑦⑨ (A + B = 100%), ⑧ (A + B ≥ 90%)。昨年度と比べてみると、Aの値も増えている。今後も、それぞれの分掌で連絡調整を十分に行いながら円滑な学校運営を進めたい。ここでは②と⑧を取り上げたい。2つとも肯定的な結果となっているが、Aが比較的少ない項目である。

Q II-2 「あなたは、危機管理マニュアルを理解している。」



Q II-8 「あなたは、校内研究(研修)に主体的に関わっている」

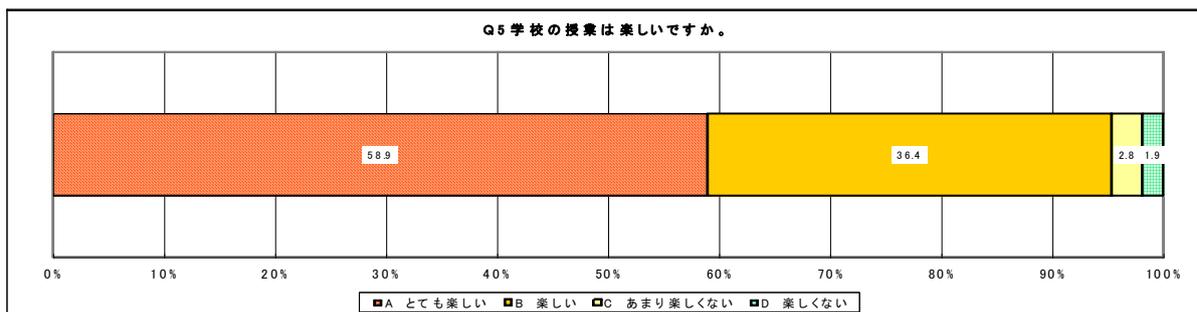


改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理については、職員一人一人が万が一を想定し、自分の役割を理解しながら備えていかなければならない事項である。そのため、安全指導計画に沿った活動が単発にならないような工夫とともに、機会あるごとに職員間でマニュアルを読み合うなどの取り組みを進めていく。 ・今年度から「創甲斐教育」での研究指定を受け「習得・活用・探求する児童の育成」をテーマとしての研究が始まったばかりである。今後研究を深めるためにも、趣旨を十分に理解し、全職員が主体的に取り組む姿勢が見られるような、授業研究や研修課題を仕組んでいく。
-----	---

III 学習指導について

達成状況 「学習指導について」は、①②③④⑤⑥⑦⑧⑩ (A + B = 100%), ⑨ (A + B = 90%, C 10%)。全般的には肯定的なものが多く、⑦以外は昨年度の数値を上回っている。しかし、Aが30%台のものも4項目あるので、課題を明らかにしながら努力を続ける必要がある。

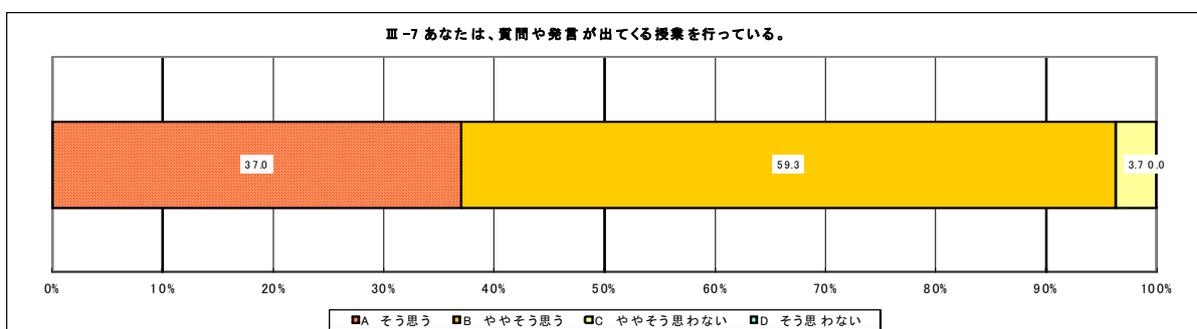
まず今回の児童アンケートから Q5「学校の授業は楽しいですか。」における結果は、以下の通り、95%以上の児童が楽しいと答えている。



続いて、今回の課題として次の項目を取り上げたい。

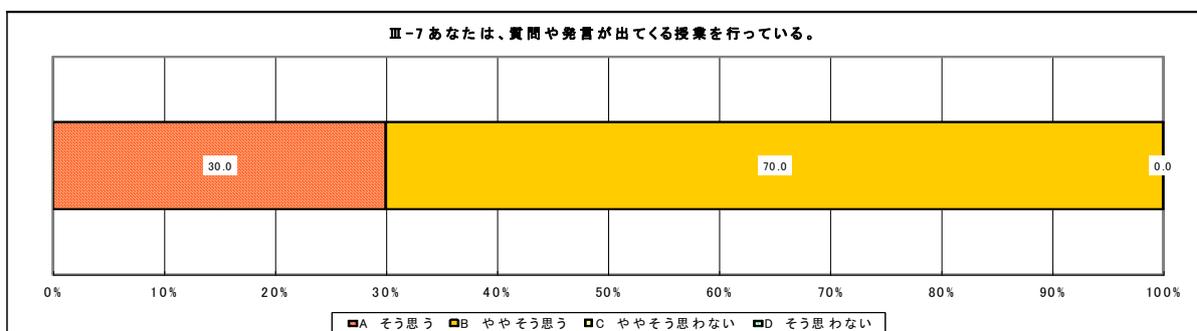
<前年度の評価>

Q III-7「あなたは、質問や発言が出てくる授業を行っている。」



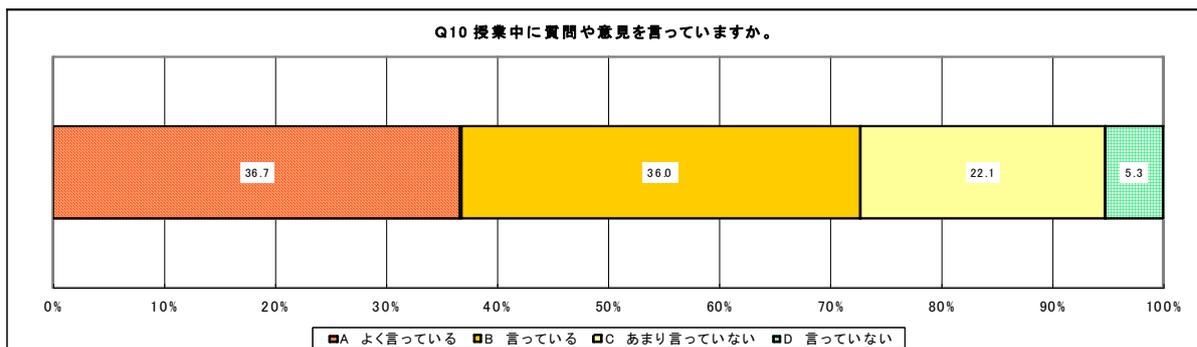
<今回の評価>

Q III-7「あなたは、質問や発言が出てくる授業を行っている。」

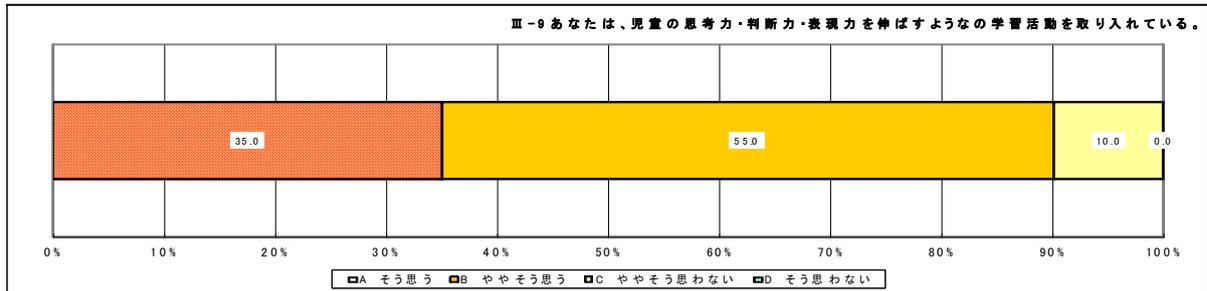


これに関連した児童アンケートとして、

Q10「授業中に質問や意見を言っていますか。」の結果は以下の通りである。



また、今回否定的な回答率が10%以上となった項目として、
 Q III-9「あなたは、児童の思考力・判断力・表現力を伸ばすような学習活動を取り入れている」が見られた。これは、学習指導要領の中でも大きく打ち出されていることなので、力を入れて取り組んでいかなければならない課題である。



- 改善策
- ・校内研究や教職員評価等を有効に使い、学習活動の見直しを積極的に行う。特に、児童が自ら考え、判断したことを意欲的に表現するような学習展開の在り方を、全校的に取り入れる。また、それを検証しあえるような機会を多く持つ。
 - ・すべての児童が自信を持って発言しあえるような学級づくりや授業規律の構築を進めていく。

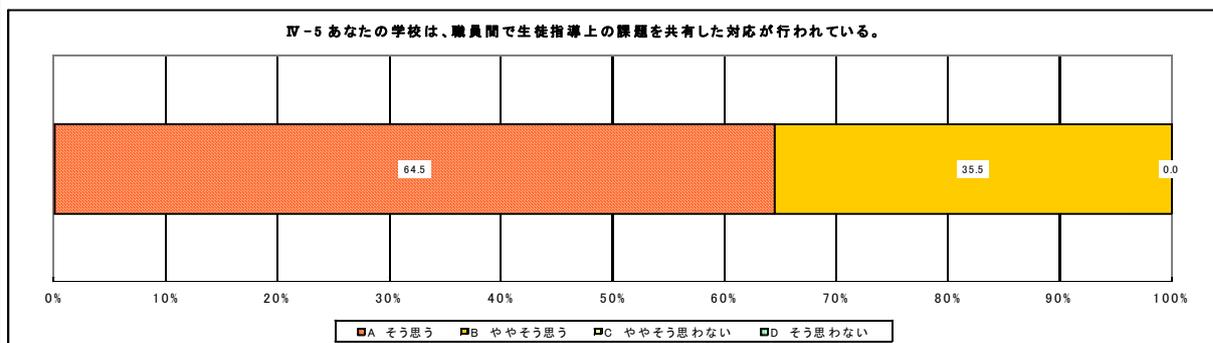
IV 生徒指導について

「生徒指導について」は、①②④⑤⑥⑦ (A + B = 100%)、③ (A + B ≥ 95%)。本校では、日常より組織立てた体制で生徒指導に当たることができている。そのため、高い数値が見られるのであると思われる。

いじめや不登校についての取組は、一層充実させたいと考えている。今後、ますます難しく深刻化することも予想されるので、早期発見、早期対応を心がけたい。

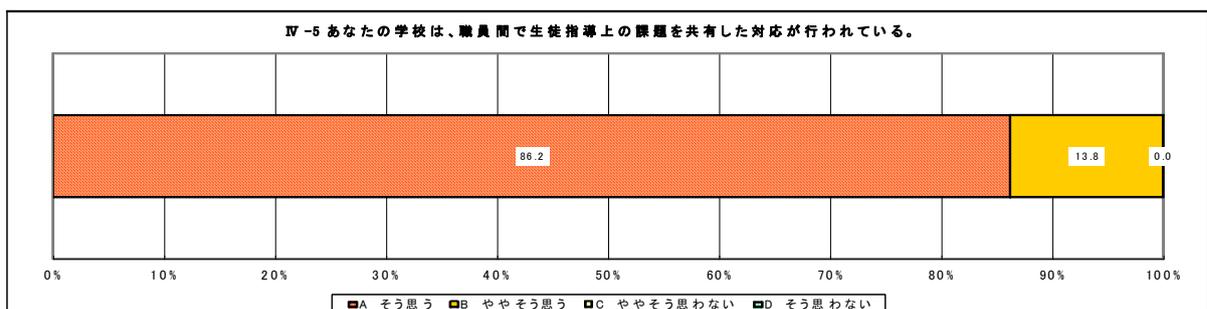
<前年度の評価>

Q IV-5「あなたの学校は、職員間で生徒指導上の課題を共有した対応が行われている。」

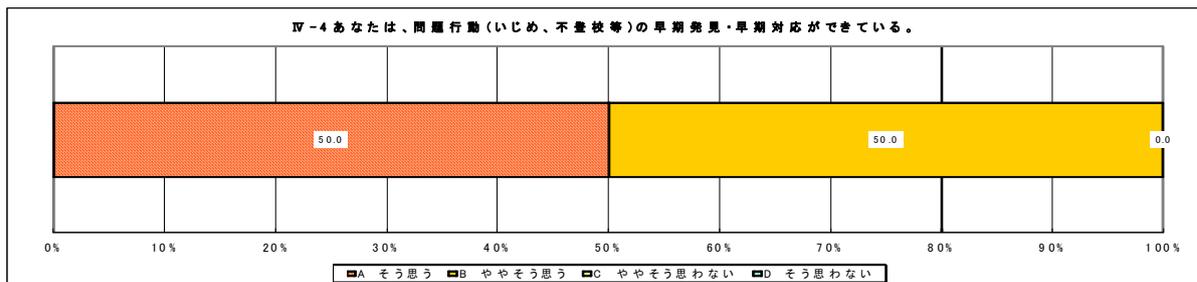


<今回の評価>

Q IV-5「あなたの学校は、職員間で生徒指導上の課題を共有した対応が行われている。」

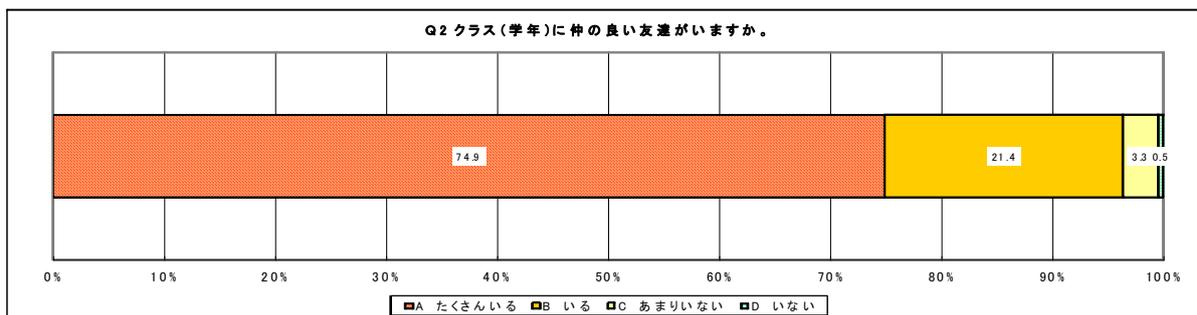


Q IV-4 「あなたは、問題行動（いじめ・不登校等）の早期発見・早期対応ができています。」

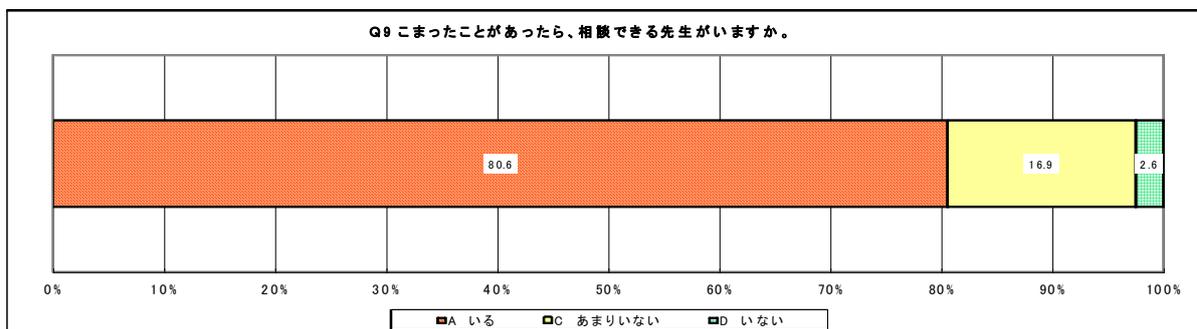


今回の児童アンケートより。

Q 2 「クラス（学年）に仲のよい友達がありますか。」



Q 9 「こまったことがあったら、相談できる先生がいますか。」



改善策

- ・QU 調査やいじめアンケート，本調査等を有効的に活用し，児童一人一人の理解や支援を行い，よりよい学校生活と友だちづくりに努めていく。
- ・授業中や休み時間はもちろん，日常より児童とのコミュニケーションに心がけ，児童との信頼関係を深め，何でも相談できる関係を築いていく。あわせて，児童理解や問題行動の早期発見にもつなげていく。
- ・家庭と相互に協力し合い，課題を明確にした情報交換を図りながら，健全な生活習慣や生活態度の育成に努めていく。

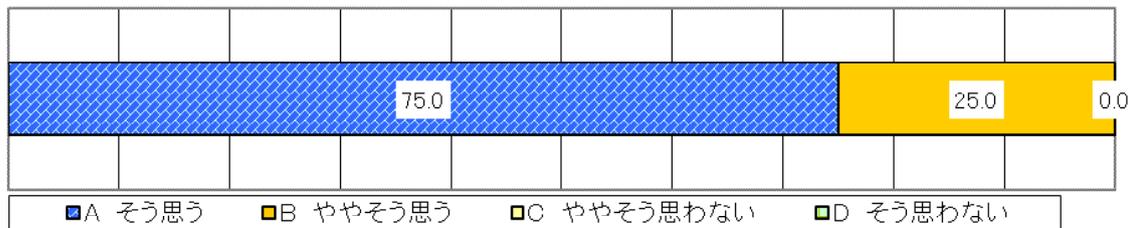
V 地域との連携について

達成状況

「地域との連携について」は，③⑧⑨（A + B = 100%），①②④⑤⑥⑦（A + B ≥ 90%）となっている。本校独自の活動である「協力者会議の開催」についての項目について，（A 評価：そう思う）と回答する職員が年々増え，良い傾向にある。

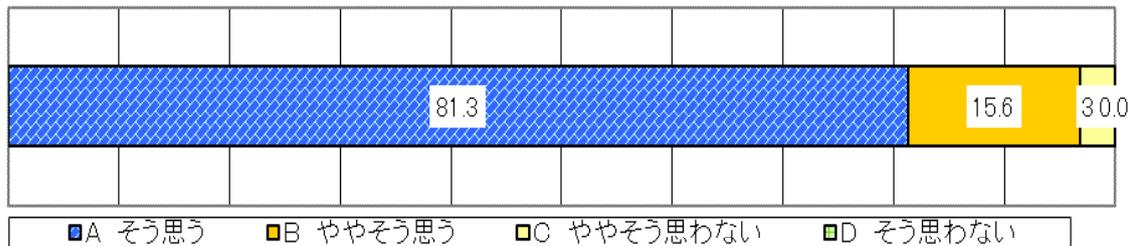
<前々年度の評価>

QV-9「あなたの学校では，協力者会議を定期的に行い，学校教育への理解と地域教育の向上に努めている」



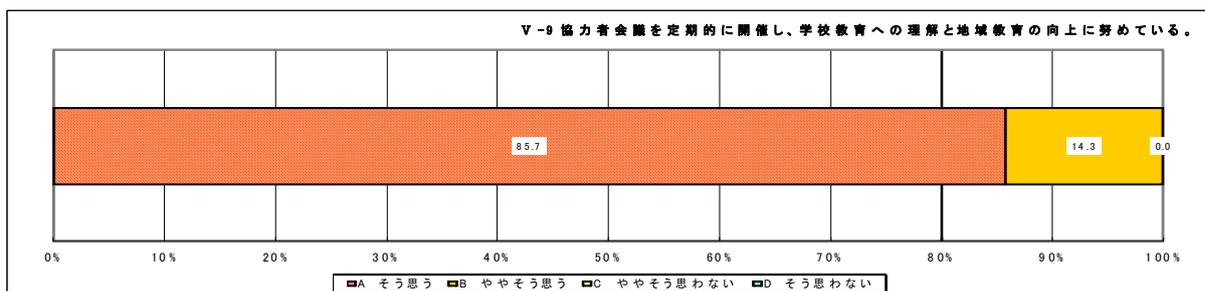
<前年度の評価>

QV-9「あなたの学校では、協力者会議を定期的で開催し、学校教育への理解と地域教育の向上に努めている」



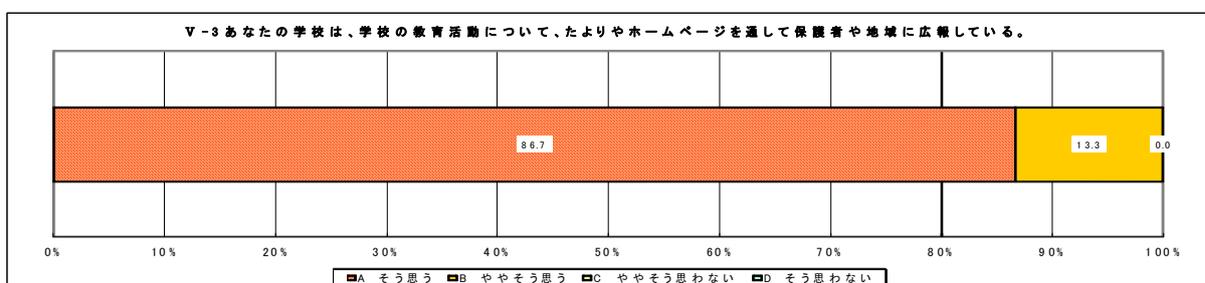
<今回の評価>

QV-9「協力者会議を定期的で開催し、学校教育への理解と地域教育の向上に努めている」



また、本校では学校の様子をホームページや便りを通して、保護者や地域に発信している。閲覧者の増加から、学校教育に関心を持っていただけていることがうかがえる。

QV-3「あなたの学校は、学校の教育活動について、たよりやホームページを通して保護者や地域に広報している。」



改善策

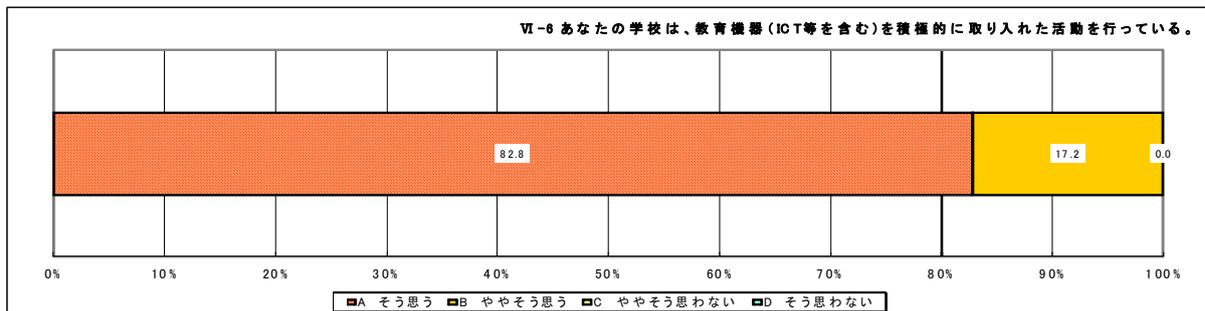
- ・「家庭や地域に開かれ、信頼される学校づくりの推進」のため、必要な情報を積極的に発信していくと共に、地域の教材や人材を教育資源として取り入れ、地域の教育力を生かす教育活動に取り組んでいく。
- ・学校評議員、地域や PTA の代表者からなる協力者会議を定期的で開催し、さらに学校教育への理解と協力、地域の教育力の向上についての取り組みを推進していく。

VI 学校の特色に関して

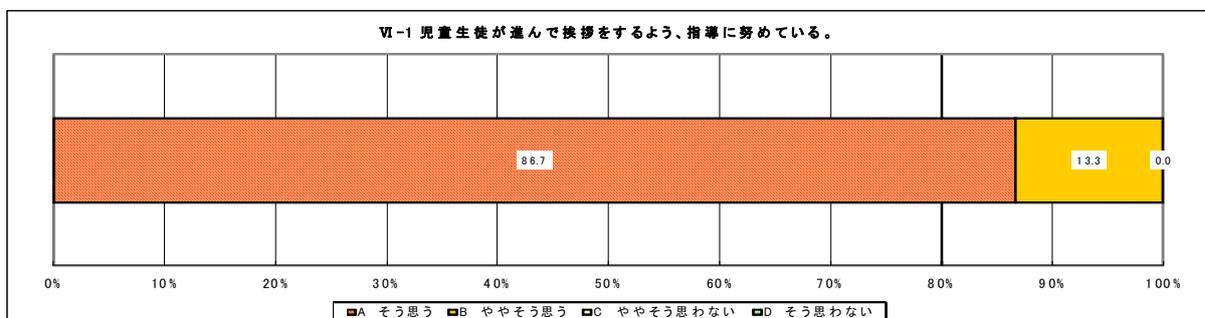
達成状況 「学校の特色について」は、①②③④⑤⑥ すべて(A+B = 100%)となっている。「あいさつ運動」「学校開放日」「読書活動」「児童会活動」「授業時数の確保」等、本校が力を注いでいる教育活動の目標達成に向けた職員の関心や意欲に関しては、前回と同様に高い数値が見られる。また昨年度より取り組んでいる（項目としては今年度より）「教育機器（ICT等を含む）を取り入れた活動」についても、校内研究の内容を踏まえ、一人一人が積極的に取り組んでいることが分かる。

〈今回の評価より〉

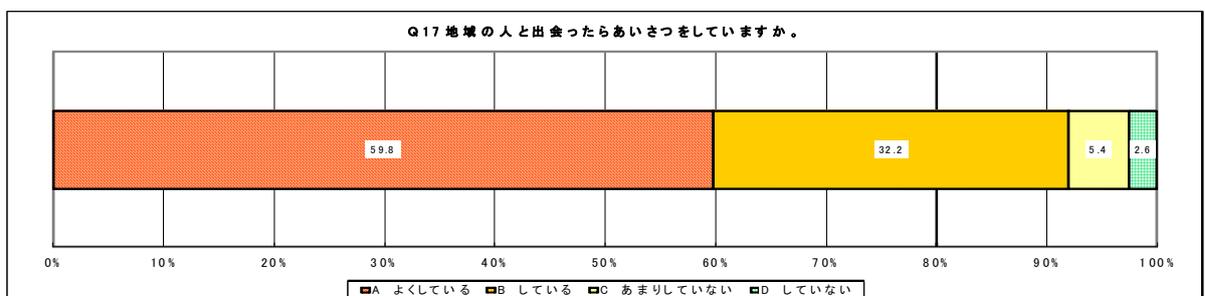
Q VI-6「あなたの学校は、教育機器（ICT等を含む）を積極的に取り入れた活動を行っている。」



児童会活動でも進めているあいさつへの取組については、
Q VI-1「児童生徒が進んで挨拶するよう、指導に努めている。」



Q17「地域の人と出会ったらあいさつをしていますか。」（児童アンケートより）



学校内に比べ、地域での活動がやや弱くなってしまいう傾向がある。児童会活動等を通して挨拶運動を更に活発化し、地域にも更に広められるような指導、取組を行う必要がある。

3 まとめ

〈成 果〉

- ・学校経営や学校運営等，教育活動全般について，教職員で共通理解を図りながら取組を実施したことから，安定した教育活動が展開されたという自己評価結果になっている。
- ・各観点における課題や問題点を把握することができ，今後の学校運営や教育改善の参考資料となった。
- ・生徒指導について，問題行動への対応や指導体制，報告・連絡・相談による情報の共有化などがしっかりとなされているという結果が出ているので，今後も続けていきたい。
- ・地域との連携も，少しずつ深まってきていることが分かった。さらに深めていきたい。
- ・自己評価を行うことによって，改めて職員一人一人が自分達の姿や指導の在り方を見つめ直すことができた。
- ・児童の多くが学校や授業を楽しく感じ，頑張っている姿をうかがうことができた。
- ・児童アンケートから，子どもたちの思いや普段見えにくい姿の一端をうかがうことができ，今後の指導への材料となった。

〈課 題〉

- ・学校評価（教職員自己評価・児童アンケート）の調査結果について，教職員一人一人が真摯に受けとめ，肯定的な回答率 100%を目指していくこと。
- ・学習指導においては，校内研究などとも関連を図りながら，児童の思考力・判断力・表現力を伸ばすような学習活動や活発な意見交換が行われるような授業展開を仕組んでいくこと。
- ・児童アンケートと QU 調査やいじめ調査等の実施結果（子どもたち一人一人の状況・クラス全体の状況）の活用方法について研修を深め，学級集団づくりや教育実践に利用していくこと。
- ・上記内容から，学級内の支援レベルの子どもたちの状況を把握し，必要とされている支援内容を明らかにして，今後の指導の在り方を考えること。
- ・児童の活動（あいさつ等）を，地域へも広められるような手立てを考えていくこと。
- ・肯定的な回答のかけにかくれている，少数の否定的な児童に対し，より細かく丁寧な見取りや対応が必要となってくる。あわせて，児童とのコミュニケーションを深める中で，信頼関係を築きながら，より一層問題行動（いじめや不登校等）への早期発見，早期対応を図ること。
- ・多様な児童への対応で，職員の精神的なストレスが増大している現状の中，日常会話の推進や人間関係の構築，協力体制や福利厚生活動の実施，メンタルヘルスへの取組などを計画的に実施していくこと。